

Tokai Fubokon Letter

第2回 文化講座 プレ企画

パピーホームってご存じですか?

11月9日10時~参加者募集が始まる前に、介助犬について興味を持っていただこうと、プレ企画をお送りします。

第二回文化講座は東海では珍しく社会福祉に目を向けます。テーマは介助犬。お年寄りを**介護**するのではなく、身体の不自由な方を**介助**する犬のことで。育成にはボランティアの支えがあります。私自身もボ

ランティアの一つに携わって5年以上経ちました。きっかけは娘が誕生日に犬を飼いたいといったところ、息子が猛反対。お試して飼えないものかと探しているうちに介助犬のパピーホームに行きついたので。

第2回文化講座 主催:東海中高父母懇談会

介助犬ってご存じですか?

2021年12月5日(日)
14時~15時

コロナウイルス感染防止により中止となる場合がございます。

会場:日本介助犬協会 総合訓練センター~シンシアの丘~
人にも動物にもやさしく楽しい社会を目指して

2009年夏から日本初の介護犬専門訓練施設として設立。介助犬育成者が輩出して訓練士育成施設を併設。施設では福祉施設内で行われる訓練に寄り添った訓練も実施されている。

参加人数:10名(先着順) 参加費:無料

内容:
●介助犬についてのお話 ●お茶とお菓子
●介助犬の育成・訓練の様子 ●施設見学 写真
●お茶とお菓子の時間も入ります。(最終終了後、お茶とお菓子)

集合場所:お茶とお菓子の時間、写真撮影をさせていただきます。お茶とお菓子の時間、ご参加をお断りいたします。

お申込み:11月9日(火)午前10時~11時(受付開始)
お申し込みは「東海中高父母懇談会」のホームページよりお申し込みいただけます。
[東海中高父母懇談会]ホームページよりお申し込みいただけます。
<http://tokai-fubokon.sakura.ne.jp>



今回の訪問先、日本介助犬協会の数あるボランティアの一部であるパピーホームについて私の経験を交え少しご紹介したいと思います。

条件の一つに“お年寄りが同居していないこと、下の子が小学1年生以上”というのがありましたので、娘が小学1年になるのを待ち、申し込みました。実際に犬が来るまでは受け入れの準備をしつつ数か月間待ちます。生後2か月から1歳の誕生日前後まで預かります。犬種は大型犬のゴールデンレトリバーやラブラドルレトリバーが多いので生後2か月とい



生後2か月ラブラドル。家に来て数日後で、すでにくつろぎ、人見知りもなし。

っても5キロ、小型犬より少し大きいくらいあります。性別や毛の色は選べませんが、名前は付けられます。ただし、個体管理上、頭文字のアルファベットだけは指定されます。過去につけられていない名前であればよいですが、呼びにくい名前は変更依頼がきます。委託式があり、その際にハウス、食器類、お手入れ用品、首輪やリード、タオル、柵、遊びグッズ等必要なものはたいてい貸していただけます。フードもいただけます。実費で必要なものはトイレシートくらいでしょうか?おやつや遊びグッズは自身での購入も可能です。



生後11か月
体格小さめのゴールデン
笑顔に癒されます(^^)

月に1度来訪デーがあり、同じくらいに委託を受けたパピーホームの方々と一緒にしつけの仕方を職員の方から教わります。介助犬としてではなく、家庭犬としてのしつけからスタートします。また、シャンプーデーというものもあり、月に1度犬用のシャンプー台が借りられる日もあります。家族で遠出するなど都合が悪い時、ちょっと休みたい時は気軽に介助犬協会に回数も期間もお好きなだけ、もちろん無料で預けられます。

息子は当時、犬になめられただけで何度も手を洗い、逃げると追いかける習性があると教わったのに逃げてシャツを何枚か破られておりました。そんな息子も別れの時は号泣し、結果的に犬が大好きになりました。大型犬の存在感は大きく今では小型犬では物足りないと申しております。1歳で25キロ~30キロになります。家の広さは条件にありません。先住犬・猫がいるお家でもお試し期間で問題がなければ飼うことができます。

職員の方は親切丁寧で困ったときもすぐに相談にのっていただけます。



生後5か月 ラブラドル
息子10歳 すっかり友だち
人が大好きに育ちます

1歳からは訓練

犬となり、適性を見られます。持って生まれた性質も

あり、介助犬になれなかった場合はキャリアチェンジ犬となります。ある程度のしつけがされているので飼いやすいです。日本介助犬協会ではキャリアチェンジ犬を受け入れてくださる方も募集しております。(ただし現在は受付停止中)少しでも興味をもっていただけでしたら幸いです。

詳しくは日本介助犬協会のホームページをご覧ください。実際にたくさんの方にご覧いただきたいのですが、コロナ禍のため少人数の募集となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

文化講座担当者より

注意：介助犬協会の規定により、12月5日の時点でワクチン2回目接種後2週間以上経過しているか、講座当日より直近3日以内のPCR検査陰性証明書持参の方のみの参加となりました。

ビッグフェス前夜祭(10/17)

心配していた雨も午前中に止み、午後には少し風は強いものの晴れ間がのぞきはじめ、高校生たちの前夜祭にかける思いが届いたようでした。始まりは市邨高校吹奏楽部の演奏から。様々な曲を何曲も演奏していく姿に自然と拍手が起こりました。吹奏楽部はどうしても飛沫が飛ぶため、顔を見合わせる練習が難しく、発表する場も減ってしまったと聞きました。あらゆる部活が同様の状況の中、11月3日のビッグ



東海生が構成詩を朗読

フェスは「私学の統一文化祭」と題し、生徒の輝く場を創り出そうとたくさんのステージが準備されるようです。

その後、日本福祉大

学付属高校の和太鼓部「楽鼓(らっこ)」の明るく弾むような演奏が続き、希望プロジェクト本番が始まりました。演奏を聞いている間、群舞の準備のため生徒が並び始めたのですが、その整列の声かけを東海生が率先してやっている姿を



見かけました。高フェス担当の笠行先生は「彼らは担当以外の仕事も一生懸命で、本当によくやってくれる。愛知父母懇は全国で一番、その中で東海が一番だから全国で一番なんです。そして高フェスも全国一だと思っています。」と熱を込めて話してくださいました。父母からの「負けないで♪」を昨年度から始まったクラッピング(拍手+簡単なダンス)での応援後、高校生の構成詩朗読があり、群舞へと繋がっていきました。



整列時に決められた間隔を保ち、マスクをとって、最高の笑顔での群舞は本当に見応えがあり、涙腺が緩みそうになりました。

♪笑ってたいんだ ぼくはずっと
見つめてたいんだ きみとずっと
一歩 ふみだすよ 一歩
進むんだ 変わるんだ そう ぼくら
どこにだっていけるよ
希望が咲く場所へ

(いきものがかり「笑ってたいんだ」より)

群舞をもって会は終了なのですが、最後はお楽しみで、恒例の「総踊り」。大きな和になってグルグル回りながら踊ります。残念ながら今年の栄のパレードは中止になりましたが、前夜祭だけでもこの盛り上がりなので、ビッグフェス本番が今から本当に楽しみです。

【高校生にインタビュー】

高1の古屋敷君は、中3の終わりに群舞練習会に参加して高フェスに入りました。その後の活躍は目覚ましく、7月に行われたサマセミでも講座を開くほど。この日も声を枯らす程率先してみんなに声をかけ、

中心となって動いていた姿を何度も見かけました。

——高フェスとの出会いは？

中3の時、笠行先生から群舞の映像を見せてもらって、それごとにかくカッコよくて。3月に群舞練習会に誘われて入った。

——入ってみて感じたことは？

コロナの間、中3の時は割り切って、交友関係よりも勉強に力を注いだ。学校生活や文化祭なんかも全力で楽しむという

感じてはなかった。僕はそれまで組織で動く経験がほとんどなくて、学校も組織で何かをするという学校ではないし、文化祭も絶対に全員で参加という感じではない。僕はあんまり参加する方でもなかった。だから高フェスに入ってみて、組織でサマセミに向けて学習会をしたり、群舞練習会をしたりして、組織での行動が印象的だった。東海生は特殊で、割と狭い層の話しかしないんだけど、高フェスはいろんな学校の人が出て、いろんな環境いろんなバックグラウンドの人たちがいるので、そこも印象的。中学から東海という狭いところにいると社会が狭くなってしまふ。高フェスの中でも社会を知れるし、高フェスを通じて社会が広がってきたと思う。

——この経験を活かそうですか？

今はこの経験が将来何につながるのかはわからない。将来、この時やって良かったと思えることは増やしておきたい。今のうちにいろんな経験をと思っている。



群舞の前にみんなに整列の声掛けをしているところ

事が進んで行かないことに気付かされました。ウォルト・ディズニーが残した名言の中に「現状維持は後退」という言葉があります。これは、思った以上に時代の流れと周りの進化は早いということだと私なりに解釈しています。新しいことに取り組むのは0からのスタート。踏み出す勇気も、そして失敗するリスクも受け入れないといけないので大変です。でも、現状維持からは新しい事は生まれません。その中で、幹事学年の高1の皆さま、地域の父母の皆さま、先生方そして代表のご理解とご協力があり、Zoom 懇親会が実現できたことに感謝しております。

ここからは Zoom 懇親会開催までの流れ、利点や課題などをお伝えしたいと思います。

開催に向けた準備

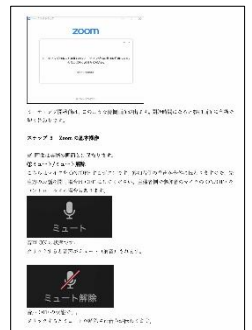
当初、自身がホストとなり開催すればよいと簡単に考えていましたが、40分以上のミーティングは有料プランを契約しないといけないことを知り、北村先生にご相談したところ、先生方が契約されているアカウントを使わせていただくことができました。

事前の打ち合わせは学校にPCを持参して先生方と対面で行い、ブレイクアウトルームの作り方、入り方、名前の変更、画面共有の設定などを北村先生・鈴木健司先生(中学音楽科)に教えていただきました。

幹事学年の皆さんとは、開催1週間前に Zoom でショートミーティングを行いました。通常の懇親会では学年ごとの着席のため、学年が違うとなかなかお話しする機会がないのですが、お顔を(オンライン上ででしたが)拝見してお話しすることができて、とてもよかったです。と思っています。

地域の皆さまには開催2週間前までに Google フォームで質問を受け付け、それを元にレジュメを作成し、出席予定の先生方にお送りしました。これにより、どなたがどの質問をするのか事前に分かっていたため、スムーズに質疑応答ができたと思っています。

Zoom ミーティング開催をご案内した時は、「Zoom を使



丁寧な説明書の一部

シリーズ「知りたい!隣の地域懇」～熱田南港編～

Zoomによる秋の地域懇談会を終えて

地域担当事務局 三輪タ子

熱田南港地域は 10/16(土)に、東海父母懇始まって以来初の「Zoomによるオンライン地域懇談会」を開催いたしました。

オンライン開催に踏み出した理由

世の中が新型コロナウイルス中心で動かざるを得ないこの時期、今まで通りの価値観や考え方では、物

ったことがない」「PCの環境が整っていないので参加することを迷っている」などのお声をいただきましたが、窓口さんが画像の入った説明書を作成し、地域の皆さまにLINEで送ってくださったので、初めての方でも不安が軽減されたのだと思います。

当日の様子

当日朝一番に北村先生とZoomで進行の確認を行いました。ノーメイクだったのでサングラスをしての打ち合わせとなりました(苦笑)(これもご愛嬌!?)

午後1時半からスタートしましたが、北村先生、山田尚史先生(高校国語科)は、職員室の中からのご参加。画面越しに見える職員室の中を歩き交う先生方が保護者の皆さまには新鮮だったのではないのでしょうか。鈴木先生には音楽の授業風景の写真や、楽器演奏の動画を流していただき、学校での息子たちの様子を垣間見ることができました。これはZoomならではのことで、通常の食事会場ですと、このような演出が出来ないため、新たな取り組みをしていただけたことに感謝しております。長谷川茂先生(中学理科)は学校説明会のお仕事が急遽入り、空き時間でのご参加でしたが、「入退室が自由に行ける」というのもZoomの利点だと思います!



山田尚史先生
学祭準備の様子、
共通テストの傾向
など、学年ごとにお話
していただきました

遠くのOBをゲストに招くことも…

通常地域懇では、近くの大学に通学中のOBの方をゲストにお呼びすることが多いかと思います。しかしZoomを使えば、日本各地にいるOBとオンラインで繋がることも可能になり、大学のキャンパスの様子なども伝えていただけるのでは…と勝手に想像していました。いろんな可能性が広がるZoom懇談会だと考えております。

体験して見えてきた課題

今回は参加人数が20人ほど。一人一人お話しただく時間はある程度は取れましたが、中にはほとん

どお話できなかった方も。人数が多くなるとブレイクアウトルームの活用時間を長く設定した方が、コミュニケーションが取りやすいと感じました。また、2時間半と長時間だったため、休憩時間をどこかで入れておく良かったのかな…と振り返っています。

反省点は諸々ありますが、地域懇親会の開催の仕方として、新しい一歩を踏み出せたのではないかと考えております。これからも試行錯誤しながら、時代に合った地域懇談会のあり方を模索していきたいと思っております。

【参加者の感想】

- ・ Zoom懇親会とても良かったです! オンラインなのに教室より距離が近く感じられ、先生方のお話も集中して聞くことができました。こんな素敵なお話なら、昨年あったら聞きたかった質問も含め、もっと心穏やかに過ごせたなあと思います。素晴らしい懇親会でした。想像以上に良いものを得られます。
- ・ 私自身も初めてのzoomでしたので戸惑う部分もありました。表示のレイアウトが変更できますので、私が見ていたレイアウトと皆様が見ているものが同じか分からないのですが、先生方が話されている時などは参加者はミュートやビデオオフにされた方がお話を聞きやすかったかなと感じました。

次号の掲載予定

- ・ 山本尚範先生講演とインタビュー

編集後記

パピーホームについて、将来立派な介助犬になれるように願いを込めながら、人が大好きな犬に育てる、というストーリーが見えて、講座が一段と楽しみになりました!

今回お話を聞いた古屋敷君からは高フェス活動の充実ぶりが伝わってきました。彼らが人や社会を勉強し、いつも自分には何が出来るかを問い、人のために動くことができる人を目指して一歩一歩踏み出していくところに、私はいつも力をもらっているような気がします。

熱田南港のZoom懇談会は感想も含めて、皆さまの関心が高い、貴重な報告でした。この成功は現状からの脱却のための熱意と丁寧な準備、そして先生方・地域の皆さまのご理解・ご協力の賜物だと思います!